

昭和五十一年は、日本の幼稚園創設百年に当たって、各地で盛大な催しが行なわれた。この百年間に、幼稚園や保育園は普及し、就学時には大多数の子どもが幼稚園か保育園を経験しているほどになった。しかし幼児の生活の実態をみると、百年前に比して、幼児の生活は幸福になつたかという点、そうは言えないのが現状である。園での生活の内容だけをみても多くの人々の良心的な努力があるにもかかわらず、全体としてみると、百年前に比して、より良くなつているとは言えないように思う。

一九七七年、昭和五十二年は、幼稚園二世紀を迎えるが、幼稚園は、百年前よりもっと大きな困難のうちに歩みを進めようとしている。この二世紀に解決してゆかねばならぬ課題は数多くある。その第一は、園児数の問題である。教育内容や方法、幼児教育などさまざまな議論があるが、もしも一クラスの子どもの数が、二十名前後になれば、教師は子ども

とゆつくりつき合えるようになり、事情は著しく異なってくるに違いない。ひとりの先生が四十名の子どもをみることは、母親が二、三人の子どもの世話をし、音をあげていふことを考えたら、ほとんど不可能なことをしているのである。また、一園の園児数が百名をこえなければ、子どもの生活はずつとゆとりのあるものになるだろう。ところが小人数にすぎると、認可も得られない現状は、行政的に何とかしてもらいたい問題である。保育の実態面からいうならば、教師が十分に自分を發揮して動くことのできる環境をつくるのが大きな課題である。実際に子どもたちの生活にかかわるのはひとりひとりの教師である。その教師が十分に力を出し、自らも成長してゆくことができるようにするのに、園長や指導主事のもつ影響力は大きい。また、教師の精神を束縛するのではなく、教師を力づける理論や人間観が必要とされる。

(津守 真)

幼児の教育 第七十六巻第二号

二月号 © 定価二〇〇円

昭和五十二年 一月二十五日印刷
昭和五十二年 二月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

©本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。